

令和5年度 第1回磐田市廃棄物減量化等推進審議会 会議録

【日 時】 令和5年8月2日（水）午前10時00分～午前11時15分

【会 場】 磐田市クリーンセンター 2階研修室

【出席者】 会 長 吉野 博行
副会長 安間 美恵子
委 員 白川 早苗 永井 さえ子
今泉 佳代 宮地 浩
磯部 良幸 伊藤 慎弥
渡邊 カルロス 鈴木 弥栄子
鎌田 俊己 相羽 久美
宮田 伸生 玉木 良汰
順不同（14名出席）

（欠 席 なし）

【事務局】 環境水道部長、ごみ対策課長、ごみ対策課長補佐、
審議会担当職員2名

【会議概要】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 環境水道部長挨拶
- 4 委員自己紹介
- 5 役員の選出
- 6 議事
 - （1）本市のごみ排出量の現状について
 - （2）令和5年度の主な取組みについて
 - （3）その他報告事項
- 7 閉会

【意見・質疑の主な内容】

1 開会

〈事務局〉 皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

この廃棄物減量化等推進審議会は、一般廃棄物の減量化や資源化の推進、適正処理に関する事等について、市民の代表の方々に審議していただくため、「磐田市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例」により設置されております。このたび年度替わりに伴い、会長も含め委員の交代があり、3名の方に委員をお願いすることになりました。新たに役員が選出されるまでの間は、私の方で会を進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、ただいまより、令和5年度第1回磐田市廃棄物減量化等推進審議会を開催させていただきます。

2 委嘱状交付

3 環境水道部長挨拶

〈環境水道部長〉 皆様こんにちは。4月から環境水道部長に着任いたしました西山です。宜しく願いいたします。

まずもって、大変お忙しい中、当審議会委員をお引き受けいただいた皆様へ、厚く御礼申し上げます。また、本日は貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございます。

さて、昨年の台風15号、今年の台風2号では、本市においても、大きな被害が出ました。このような豪雨災害は地球温暖化による影響によって、今後、更に激甚化・頻繁化すると言われております。

本市ではごみ問題も、地球温暖化と密接な関係があることを認識した上で環境に優しい持続可能な循環型社会への移行を目指した取組みを進めているところでありますが、この審議会でもいただいた皆様からの貴重なご意見を本市の持続可能な循環型のまちづくり、そして、カーボンニュートラルの更なる推進に繋げていきたいと考えています。

本日は限られた時間ではございますが、ごみの減量、リサイクルの推進等に忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

4 委員自己紹介

5 役員の選出

〈事務局〉 磐田市一般廃棄物の減量及び適正処理に関する条例施行規則第25条第2項によりまして、委員全員が出席しておりますので、本会議が有効に成立していることをご報告申し上げます。

次に役員の選出に移らせていただきます。会長・副会長の選任につきましては、条例施行規則第24条第1項に委員の互選により定めると規定されておりますので、皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

〈委員〉 ≪事務局に一任≫

〈事務局〉 ただいま、委員から事務局一任とのご意見がありましたが、いかがでしょうか。

〈委員〉 ≪異議なし≫

〈事務局〉 それでは、事務局から会長・副会長の人選についてご提案させていただきます。

会長には、前回まで当審議会で会長を務められた自治会連合会の藤田允委員の後任ということで、吉野博行委員が適任かと存じます。また副会長には、引き続き消費研究グループいそじ会の安間美恵子委員にお願いしたいと考えますが、いかがでしょうか。

〈委員〉 ≪異議なし≫

〈事務局〉 ご異議がないようですので、会長には自治会連合会の吉野博行委員に、副会長には消費研究グループいそじ会の安間美恵子委員にお願いします。それでは、会長、副会長の席へお移りいただきますようお願いいたします。

それでは、吉野会長より一言ごあいさつをお願いいたします。

〈会長〉 ただいまご指名いただきました吉野博行と申します。前任の藤田委員から引き継ぎまして会長を務めさせていただきます。

自治会連合会としてもクリーンセンターの施設見学や環境美化活動などに取組んでいますが、市民の皆さんの協力で、ごみの適正処理やごみ集積所が衛生的に維持されるなど良好な生活環境が保たれていると感じて

います。

任期の令和6年6月30日まで約1年間ではございますが、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

〈事務局〉 それでは、安間副会長ごあいさつをお願いいたします。

〈副会長〉 副会長の安間美恵子です。よろしくお願いいたします。

〈事務局〉 ありがとうございます。それでは、審議会の進行については、磐田市一般廃棄物の減量及び適正処理に関する条例施行規則第25条第1項により、会長が議長となりますので、以後の議事進行につきましては、吉野会長よろしくお願いいたします。

6 議事

- (1) 本市のごみ排出量の現状について
- (2) 令和5年度の主な取組みについて

《 (1) ~ (2) を事務局より一括して説明 》

〈会長〉 それでは、委員の皆さんのご意見ご質問をお聞きしたいです。

〈委員〉 まず最初に会議の運営で思ったことですが、資料をメール等で送ってもらうのは、どうですか。理由ですが紙でなければごみが減ったり、作業の時間やコストが減ると思います。個人的には、紙より電話の方が管理しやすい。でも紙の方が管理しやすい方もいるので難しいなと思います。今作業的には、データの方が職員さんも業務量が少ないと思います。メリット、デメリットがあったら教えていただきたいです。

次に質問ですが、令和4年、5年で活動した効果は、どのような事があるのでしょうか。市民や企業、市にも変化はあったのでしょうか。活動をしてみて市民、企業の思いの変化があったのか、行政側にも変化があったのか、普通の人ってごみを減らそうと思うのか、僕は、この世からごみを無くしたいと結構本気で思っていますが、友達や周りの人などごみに対して問題意識をあまり持っていないようです。すぐ捨てればいいのか、すぐ生み出せばいいのか、普通の人、思っているのでしょうか、町の工場とか企業とかもどう思っているのか、意識調査など行っているのでしょうか。市内の企業と廃棄物の削減について連携している事がありますか。

自分の勤務先でごみの削減の委員会を作っていて、委員を務めたことがあり、仕事をしながらごみの削減をしたりしますが、行政と民間が連携していたりすることはあるのですか。

改善する時には生み出すよりもまず無くせないか考えて、そこから交換できないかどうかと考える手順があります。自分は普段会社員で、個人的に勉強会をやりたいなと思っていて、市民に「世界からごみを無くそう」をテーマにワークショップをやりたいと思い、そういうことは市民に協力してもらったりできるのかと考えます。

<事務局> 最初にメールで資料を送るのはどうかのご意見ですが、市でも DX を進めており、庁内会議等でもできるだけデータでのやり取りを進めておりますので、今後ご希望いただきました委員さんにはメール等でのやり取りで資料を送付させていただきたいと思えます。希望される方は担当までお知らせください。

次に取組みの効果についての質問ですが、全体としてごみの量で言いますと資料の 1、本市のごみ排出量の現状で説明したように 1 人 1 日あたりのごみの排出量が令和 4 年度は、721 g で台風 15 号の災害廃棄物により令和 3 年度の実績値 716 g に比べて増加していますが災害廃棄物を除いた場合は 709g となり実質的にはごみは減ってきています。

市民の変化としては、令和 4 年度値引きシールを集めて食品ロス削減キャンペーン結果報告書にもあるように「以前から節約を兼ねて値引き商品等を購入していましたが、少し恥ずかしいと思っていました。最近では、間違っていなかったのだと思い積極的に利用しています」という意見や「食品ロス削減への意識が高まり賞味期限が他より近い商品を買う事に抵抗がなくなった」という意見にあるような意識の変化が感じられています。

企業の変化としては、食品ロス及びプラスチックごみ削減に向けた取組みに関する協定を結んだ事業者の意見として令和 4 年度食品ロス及びプラスチックごみ削減に向けた取組みに関する協定の実施状況の資料がありますが、協定に参加したことに対するアンケートの回答として「食品ロスやプラスチックごみ削減に対するお客様や店舗の意識向上にもつながっていると思えます。企業がお客様と一体となって環境問題に取り組んでいることは、とても素晴らしいと思う」という意見や「市のみだけでなく事業所も一緒に情報発信することで地域住民への良い啓発となったと考える。当組合にとっても協定に参加することでイメージアップ効果があったと思う」という意見をいただき市民や企業に啓発が根づいてきて

いる手ごたえを感じています。また取組みの効果としてレジ袋削減に向けた取組みとしては、1年間で約108トンのレジ袋を削減、食品ロス削減に向けた取組みとしてはキャンペーン期間の2ヶ月間で約17トンの食品ロスを削減したと推計しています。

市の変化としては、自治体、市民、事業者が連携して取り組むことの重要性を改めて実感しています。例えば値引きシールキャンペーンや食品ロス及びプラスチックごみ削減に向けた取組みに関する協定を事業者、市民と共に取組んだことで啓発活動が効果的に進んだこと、また災害活動の処理においても協定を結ぶことで連携がとれ、有事の際でも迅速な対応ができ、とても磐田市だけでは、対応できなかったことが連携により実施できたと感じております。

意識調査については、ごみ対策課で実施している調査は、ありませんが市の企画部で総合計画のために基礎調査として市民意識調査を5年ごとに行っています。環境に関する項目としては、最近では、SDGsに関連した質問となっていてごみに特化したものはない状況です。

次に企業との連携についてですが小売業を対象としては、食品ロスとプラスチックごみ削減に対する協定による取組みを行っています。その他の分野だと令和2年8月に『事業者の皆様へ事業系ごみの分け方、出し方』というパンフレットを作成し、事業系のごみは事業者自らの責任において適正に処理し、リサイクルに取り組んでいく旨を商工会議所、商工会にご協力をいただき市内3000以上の事業所に配布することで周知してきたところです。

<委員>

県内同規模市で少ない方から3番目となり、磐田市としては、ごみの減量が順調に進んでいると思います。若い人達が廃棄物に興味を持っていただけることは私の年代からしても非常にうれしいと感じました。それから昨年1年間推進審議会に3回参加させていただき、非常に私自身、成長させてもらいました。これをどのようにフィードバックし、伝えていくか今年度はそこを考えていけたらと思います。私は、値引きシールの付いている商品を積極的に購入する人ではなかったですが、昨年値引きシールキャンペーンに参加して、また今年もチャレンジしたいと思います。

<委員>

リサイクルステーションの開場について、回収品目が増えて良くなっています。土曜日がお休みで日曜日の9時から11時までで2時間ということで利用時間が短く、道路が混み合っているものですから結構な渋滞

になっています。もう少し時間を長くするか土曜日の受付を行うことが可能なのかお聞きしたいです。

もう一点、アンケートでもこの頃磐田市ラインを使つての情報提供が多いようですがペーパーレスの一環としてラインでのアンケートなども検討できないでしょうか。

<事務局> 現在のリサイクルステーションは、令和2年度に現在の場所に移転しました。年間3万人くらいの利用だったのが最近では、6万人を超える利用があります。日曜リサイクルステーションは、市内5か所で設置しており、そちらも利用が増えごみ対策課としても搬出環境の充実というのは、非常に重要だと考えております。ただし費用もかかりますし土曜日は、クリーンセンターも閉場日となりますので、例えば日曜日の開場時間を長くする方向で検討できないか考えていきたいと思っています。

2点目のラインの件ですがごみ対策課でも昨年からごみ収集日をお知らせする機能を始めました。今は粗大ごみの収集をラインで受付できないか研究しています。そういった意味で全庁的にラインを活用しようという事で広報とも連携しておりますのでアンケートについてもこれから研究していきたいと思ひます。

<委員> 市民の関心がどうしてもお金の話に関連付けて広報していくというのが一番ごみ減量につながる話かと思ひます。前回3月の審議会の時には、ごみ処理にかかる経費の一覧表をいただいています。8月に入りまして市の出納的には、出納閉鎖を終え、既に確定していると思ひます。3月にいただきましたごみ処理にかかる経費、一人当たりのごみ処理に必要な経費がこれくらいなど、かかった金額で示すと単なる目標の基準がクリアしたのではなくて市民にも伝わりやすいと思ひます。ぜひ、そういった伝え方をお願いします。

<事務局> 広報いわたやホームページでお知らせしていますが委員さんからご提案いただいた意見を含め、今後の広報の紙面構成を考えていきたいと思ひます。

<委員> 2050年ゼロカーボンに向けて、どれだけCO2を削減しているのかというデータも出してもらおうと小学校、中学校もSDGsやごみに対する意識を持って、それを研究してごみに関連したことに取組んでいただけるので

はと思います。令和 13 年に 666 g を努力目標としているようですが、これにより一人あたりどれぐらい CO2 を削減する見込みなのでしょう。また、ガラスと陶器をリサイクルステーションで回収していることを友達に聞いても知らない人の方が多かったです。高齢者の方は、動けなくなるとそこまで持って行けないのでペットボトル、瓶、缶など地域の出せるところでやっているように、地域で資源ごみとして回収してもらえるようになるでしょうか、そうしてもらえたら嬉しいし検討しているのか教えてください。

<事務局> 1 点目の 2050 年ゼロカーボンの関係ですが、市全体としては、環境水道部の中で環境課が主管しておりまして地球温暖化対策のための計画などを策定しております。そういった中でごみ対策課としては、その中の廃棄物部門という事でできるだけゼロカーボンに向けた取組みを分かりやすく伝えたいという事で紙製 100%クリアファイルを作って、クリーンセンターの施設見学で小学校 4 年生 1500 人程に配布したり、説明会でお配りすることでゼロカーボンに向けてできる事をやりましょうと啓発しています。なかなかゼロカーボンといいますと雲を掴むような大きな話に思えてしましますが、我々ができることはマイバックを持ち歩くとかプラスチック製品を使わないなど身近な事でもできることはあります。数字的なところを環境課にも確認してまして、2013 年を基準として 2050 年までにゼロカーボンに向かって進めていて、2013 年の二酸化炭素の排出量が市内で 200 万トンだったのが直近の数字で 2019 年度 140 万トンぐらいまで約 3 割減ってきています。今後 2030 年で半分減らして 2050 年にゼロを目指そうという事でやっております。最新の取組み状況を計算した数字は、またしばらく経ってから出てくるのでご理解をいただければと思います。それに向かってごみ対策課としては計画を着実に進めていきたいと考えています。

また 2 点目のガラス陶器のリサイクルの関係です。リサイクルステーションで去年から回収を始め、月 1 回の収集日にごみ集積所に出すのを忘れてしまったような方が日曜日に出せるので効果的にご利用いただいているようです。そのようなことで利用者が 3 万人から 6 万人ぐらいに増えていると思います。委員さんからのごみ集積所でガラス陶器を資源ごみとして回収するというご意見ですが、埋立ごみを将来的にゼロにしていこうと考えています。ごみ集積所で回収した場合は、現在、中遠広域粗大ごみ処理施設で処理されますが、そこで埋立てているところを、例えば今磐田市でやっている民間の資源化処理施設にガラス陶器をお願いで

きないかという検討をしているところです。いつからというのは、現段階では言えませんが、現在検討中ということでご理解のほどお願いします。

<委員> 磐田市内に住む外国人の数がもうすぐ1万人に達する見込みです。これは2008年のリーマンショック前のピークと同じような数字になります。以前、ごみ対策課で作ったごみ分別動画を外国人窓口で利用させていただき、転入時やこれから入居される方には、最初から最後まで各ごみの分別について動画を見せております。今年度作成する外国人向けのごみ分別動画の作成ですが、以前の動画とどのような違いがあるのかというのと、作ってもらうのは、たいへんありがたいですが作るだけでは、どうしても市役所に来ていただいている方には、見せる事ができますが、それ以外の方にどのように見せるかどう考えているのでしょうか。

<事務局> 日頃外国人窓口で動画を見せていただくなどご協力いただきありがとうございます。今活用しているものに関しては基本的なごみの出し方、分別が9分別でこのごみは、こうやって出すよというような、磐田に転入された方に向けた動画になっています。これから作成するものに関しては、そのさらに先、ごみの分別やリサイクルというような、ごみを出すだけでなくさらに意識を高く持っていただくような内容にしたいと思っています。それをどう見ってもらうかについては、現状でも例えばごみ集積所で分別が間違ってしまう、残されたごみが出てきます。日本人の方もおりますが外国人の方もいまして、その場合は記名がしてあれば自治会の方でその方に戻してもらっていますが、無記名の場合は、ごみ対策課の方で開封調査を行い、ハガキなど手がかりがあればその方に直接指導するというを行っています。その指導文書に外国人の方であれば動画にアクセスできるようなQRコードを付けたチラシを同封しております。これを見てもらい、文字だけでなく動画で指導を行っていますが、そこに新たな啓発の動画も載せることを考えています。また、年度末に翌年度のごみカレンダーを市内全戸配布させていただいています。日本人向けには、日本語で外国人向けには外国語のものを作ってお送りしていまして、新たな取組みですが来年の2月から3月の予定で動画のQRコードのチラシを封入して送付する予定です。磐田にお住いのポルトガル語、タガログ語、ベトナム語の3か国語の外国の方、概ね8割の方には、その動画を見てもらえるようにと考えています。

<委員> 資源回収を会社としてやっています。小中学校での資源回収の量です

が、今少子化が進んでいるせいか10年くらい前から半分ぐらい量が減っています。せつかく回収に行っても足しにならないため、市の予算に余裕があれば奨励金を増やしてほしいというような声もあります。しかしそうすると民間のリサイクルステーションの方に古紙等がいなくなってしまう状況にもなりかねないため、一概には言えませんが、資源回収量を実施する回数も減っていますので、質問ではないですがそういう声があるという事でお伝えします。

<事務局> 参考にさせていただきます。コロナの影響でここ数年活動が難しいというような声をきいております。そのような事で例えば広報いわたで活発に活動をされている方の声を載せるなど取り組みが広がるような広報を考えていきたいと思えます。

<委員> 令和5年度に組成調査を市で行うということで、具体的に手伝えることはないですか。

<事務局> 組成調査は、ごみ対策課で、ごみ集積所を何箇所か選定して自治会長さんにも了承を得た上でそこからごみ袋を抽出させていただき、それを1箇所に集めて開封調査をし、どんなものが入っているか調べる調査を言います。前回は可燃ごみには生ごみが34%、紙類が30%という結果が出ていましたのでこの部分を減らす取り組みが必要だという事で計画の参考にしてきました。プラスチックが9.4%ほどありますが、ゼロカーボンに向けては、この部分を燃やすのではなく、資源にできればということを考えていく基礎調査として実施していきます。具体的に市民の皆さんに何か手伝っていただくということは、特にありませんがご承知おきいただければと思います。

<委員> 民間の古紙コンテナスペースは、かなり市内に沢山あってここが溢れるくらいに出ているので数字的には、ごみの量が減って見えるかもしれませんがごみ自体は、増えているのではないかといつも感じています。値引きシールもたいへん良い事だと思えますが取り過ぎてしまうと逆に賞味期限切れで廃棄処分しなければいけないと聞きますので、その辺は注意しながら取っていただければと思います。

<事務局> 民間のステーションが増えていますが、そちらは市のごみ総排出量にカウントしていません。ごみ排出量の定義ですが、ごみの総排出量には資

源回収や拠点回収は、加えていない数字になります。資源回収量については、あくまで資源という扱いにさせていただき、ごみ排出量については、それを含まない数字です。そのため資源回収量が減り、民間コンテナにその分がいつているわけですが、そのどちらも入れていないので純粋なごみの量という事で定量的に比較させてもらっている状況になります。

値引きシールですが、先ほどのアンケート調査で紹介したように意識を高く持っていただいている方もいますけれども、逆にお店の方からは値引きシールだけ取ってしまって応募する事例がある、というような事も報告されていますので、そういった事を参考に改善させていただきながら今年度もやっていきたいと思えます。

<委員> 令和5年度の取組みの中で値引きシールを集めて食品ロスキャンペーンを実施したということで、今年度はどれぐらいの事業者が参加してくれるのか教えていただきたいと思えます。

<事務局> 今年は、これまでの17社39店舗に加え、さらに数社が是非参加したいと言っていたいております。

<委員会> 磐田市はごみ排出量の少なさが全国、県内でも上位にいて素晴らしいと思えます。その上位である理由がどのような取組みの結果、成果なのか、どうお考えなのか、もしありましたら伺いたいです。

2点目は、雑紙スタンプラリーを去年同様今年も実施されて、可燃ごみの中で紙類が多いのを聞いていますので年1回でなくて2、3回やる事ができると更に成果が出るのかと思えますがどうでしょうか。

3つ目は、私もごみの減量に関しては協力したいと思えますが、やはり一人一人が減量しなくてはいけないという意識や普及活動が大事になってくると思えますが、いただいている資料の中で市役所や図書館の展示が挙げられています。そこに行く人は、限定されるのかなと思えます。多くの人目に触れるためには交流センターか賛同して下さっているお店が、せつかくあるのでそういう賛同して下さる店舗とか人が集まりやすいところで展示、啓発をしていくとより多くの人目に触れると思えますのでその点いかがでしょうか。

<事務局> 1点目のごみ排出量の上位を占めている理由ですが磐田市で行っている指定ごみ袋の記名式を行っていることが大きいかと思えます。自分のごみに責任を持ち分別するという意識が高まるという効果が考えら

れ、磐田市では、平成6年度に記名式を導入しましたがごみ排出量が導入前と比較して可燃ごみで約2割削減したとの記録があります。

2点目の雑紙スタンプラリーについて良い取り組みだという事でありがとうございます。回数を増やしてはどうかという事ですが、令和2年度は357キロ、令和3年度は879キロ、令和4年度は1,284キロという事で収集量が増えていまして、今後も良い取り組みになるように検討していきたいと考えております。

3点目の普及、啓発についてですが現在は3箇所、市の本庁舎とにこつとと中央図書館になりますがこちらは、スペースが広いので展示スペースを有効的に使用できるのですが、交流センターではスペースが狭くなってしまうという問題がありまして、現在はキャンペーンのポスターですとかチラシを設置することで交流センターを利用させていただいています。今後は、コロナが落ち着きイベントでのブース出展なども考えておりますので一層の啓発に努めていきたいと考えています。

<委員> 100%紙製クリアファイルは、何か申し込んだりしなければいけないのでしょうか。全然、私のまわりでは、使っている方はいませんが。

<事務局> 紙製クリアファイルは現在は例えば施設見学に来た小学生に配ったり、説明会があった時にお配りしているような状況です。

<会長> 市でもいろいろ考えていただいているようで、かなり良い企画を持ち常に意識を持ちながら取り組んでいると思います。小学校2年生の孫に今年の夏の自由研究は何だと聞くとごみの出し方、温暖化についてだと言いまして、磐田市も「ゼロカーボンシティ」を表明したということで、ゼロにするには筋道というかロードマップと言いますか、どうやっていくかを知りたいし、どこまでやればカーボンゼロになっていくかというのが非常に興味があるところです。皆さんご意見を一生懸命考えてくれてありがたいなと思いますし、引き続き磐田市が引っ張っていてもらいたいなと思います。それでは、以上で終了になります。ご協力ありがとうございました。

<事務局> 貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。以上を持ちまして、第1回審議会を終了いたします。ありがとうございました。

7. 閉会